

【NITS・弘前大学教職大学院】

## 令和6年度 充実期研修講座

組織で解決する力を伸ばす  
チーム学校を支えるスクールリーダーのために



- 青森県教育職員研修計画の研修体系に位置付けられた講座です。
- 育成指標において充実期教員に求められる「マネジメント力」及び「指導力」の伸長を図ることを目的としています。
- 対象は、学校長の推薦を得た主として30代後半～40代の県内学校教員（教諭・養護教諭等）です。校種は問いません。参加を希望される方は、所属校の管理職にご相談ください。受講修了後、県教育委員会の研修履歴に記載されます。
- 教職大学院教員のコンサルテーションを受けながら、実際に勤務校においてアクション・プランに取り組みます。多忙な充実期の教員に配慮して、オンラインと集合研修（2日）を組み合わせ実施します。

## プログラムの流れ（4～11月）

- 主として30代後半～40代の教諭・養護教諭で校長の推薦を受けた方は、パンフレット末尾の方法で申込フォームに必要事項を記入して送信してください。連続する2年まで参加可能です。
- 4月に参加者を決定して受講決定通知書をお送りし、オンデマンド動画でガイダンスと講義を配信します。
- ガイダンスで指示された組織分析と人材育成のワークに各自取り組んだ上で、5～6月にオンライン協議を行います。これらを通して、俯瞰して学校現場を見る視点を養いつつ、それぞれの勤務校をよりよくしていくためのアクション・プランを考えしていきます。
- 7月25日の第1回集合研修では、最新の教育事情に関する講義を聴くとともに、それぞれが考えたアクション・プランの案を紹介し合い、実際に進める上での課題や考えられる工夫について、教職大学院の教員も加わったグループで協議していきます。
- 8月には、希望参加のオンラインの実践事例コンサルテーションが、4回程度開催されます（まったく参加しないことも、すべて参加することも可能です）。昨年度の参加者が実施したアクション・プランについて話を聞き、その上で、各自の進めるアクション・プランのヒントになるような協議を行います。
- 9～10月は、複数日程で設定されているオンラインのコンサルテーションに、参加者が都合のよい日時を選択して参加します。1回は必ず参加、希望する方は2回まで参加できます。それぞれのアクション・プランの進捗状況を確認しながら、教職大学院教員が助言を行います。
- 11月28日の第2回集合研修では、それらのアクション・プランの実践報告を行うとともに、組織の中核を担う世代に求められるものについて協議していきます。

## アクション・プランの実践事例

令和5年度のアクション・プラン実践事例から4つを紹介します。

- 初任者の先生をメンティー、30代教諭、教務主任、研修主任、生徒指導主任をメンターとした5人のチームで、初任者の育成を図るアクション・プラン。3週間に1回程度、メンター会議を設けた他、メンティーに適切な助言ができるよう、メンターが随時授業を参観した。メンティーから、「学級の課題について、具体的な対応の仕方を知ることができた。学習発表会の指導や校務分掌の相談もでき、心の負担が軽くなった」という声があっただけでなく、メンターにとっても、話題になった内容について複数の視点から意見・考えを出し合うことで、視野を広げ、自らの実践を見直す機会になった。（弘前市立和徳小学校・小林広征先生）
- 「研修のICT化で共有、授業改善！働き方改革！」を目指すアクション・プラン。学校内だけでなく、校長会の承認を経て弘前市中教研視聴覚部会クラスルームを立ち上げた。Googleクラスルーム内に、ICTを活用した授業例（33例）の紹介とNITS研修動画を組み合わせたコンテンツを作成、登録メンバー68人の教員と共有できた。授業例を見て授業をしてみたい先生がいれば、教材はそのまま使い、各校ICT支援員のバックアップを受けて準備時間が大幅に短縮できるため働き方改革にもなるようにした。（弘前市立南中学校・蒔苗康弘先生）
- 生徒自身が制服の在り方を考えるための「私服登下校WEEK」を設定するアクション・プラン。歴史ある伝統校だが生徒募集上の課題などもふまえ、制服についての見直しの可能性も視野に、実施後に生徒に制服に関わるアンケートを実施した。私服WEEK自体は非常に好評で、継続してやって欲しいという声がほとんどだった。今回の生徒からの反応を受けて、本校で制服検討委員会が再結成された。今後の制服の在り方について話し合いをしていく契機となった。（青森県立五所川原高等学校・山下可名子先生・館山健二先生）
- 「安心・安全な学校づくり」を目指すアクション・プラン。危機管理に関するセミナーへの参加、校内研修会の実施、危機管理マニュアルの見直しと周知、避難訓練と安全点検の見直し、防災用品や教材等の整備、HPを活用した早期発見・情報発信などに包括的に取り組んだ。進める過程では、危機管理委員（校長、教頭、事務長、生徒指導部、各学部主任）を中心に、全職員が関わられるように分掌や委員会で提案し、学部や類型単位での検討も行った。外部人材（学校運営協議会）を活用して、安全点検、スクールバス置き去り防止装置設置、災害用備蓄品購入などを実施できたのも大きな成果だった。（青森県立八戸第一養護学校・成田光将先生）





## 令和5年度参加者の声

私自身今回の研修を通して改めて、年上の方々にどう伝えるか、そして動かせるかが難しいと感じました。そのためには仲間を増やし、自分自身を磨き、人とのつながりを大切にするなど資質・能力、人間性、人間関係を意識し取り組んでいきたいです。

また、私一人の考えでは数個しか挙がらないものが複数人になるとシートを埋めつくすくらいの意見・発想が出ました。同じ志を持った仲間と色々な話をしながら自分自身を更に高めていきたいです。8ヶ月間ありがとうございました。

変えていくために、新しい取り組みが必要だと研修前は考えていた。研修を受ける中で、新しい取り組みよりも既存の取り組みをより良く活用できるよう改善することの方が大切であると考えようになった。(もちろん新しい取り組みを考えることも大切。) また、改めての気づきとして、生徒をより良い方向へ導くためには、個人では限界があり、周囲や外部とのコミュニケーションやネットワークの構築が不可欠である。同年代の先生方と交流を持てたことがありがたい。

自分の実践に対し、よいところや改善点などについて、御意見、御助言をいただくことで、異なる視点からの考え方に気付くことができました。また、他の参加者の方のアクションプランについて意見を出し合うことを通して、自分の考えや取り組みについて俯瞰して見つめ直すことが増えてきました。いただいた助言の中で、主語は生徒で、生徒にどんなメリットがあるかが大事であると言われ、その視点で考えるようになりました。

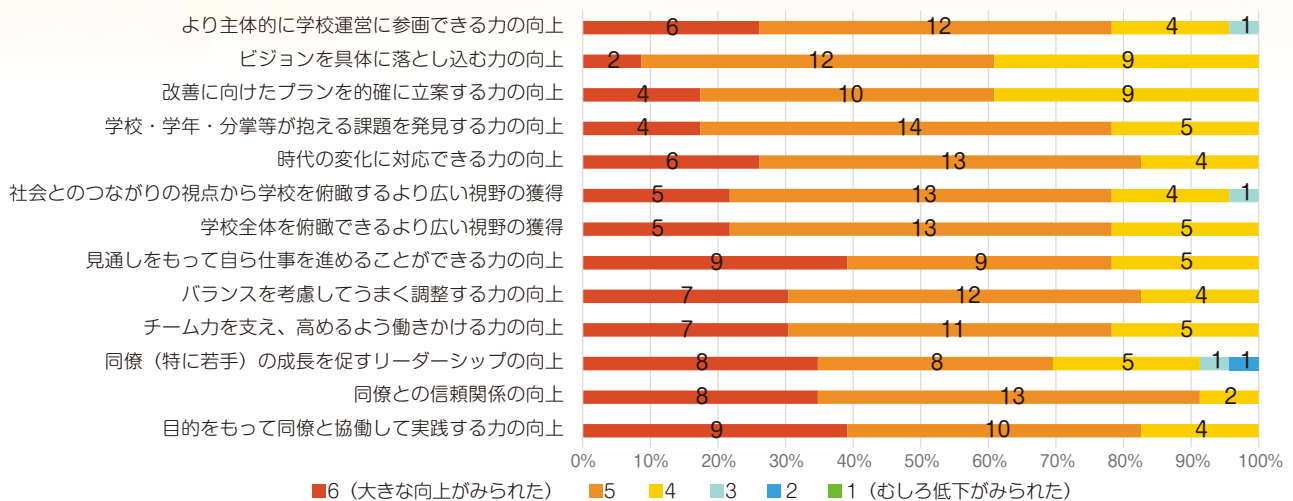
様々な校種や、役職・立場の先生方の実践例を聞くことができ、各校における実情や葛藤を学ぶことができた。グループワークを通して、それぞれの先生方のテーマについて深く掘り下げることができ、色々な考え方や視点を獲得できた。これは、実際に現場で活躍している先生方だからこそ持ち合わせている視点であり、この研修に参加して本当によかったと感じる。

また、これまで多くの立場を経験されてきた教授陣からの助言・講義を通して、中堅だけではなく、管理職としての視点・考察を知ることができた。

年齢も40歳を超え、少しずつ学校運営面に関わる役割を与えられるようになってきた。若い頃と同じく新しい仕事にワクワクする気持ちは変わらず抱いているが、同時に、未だその役割の責任は自分以外のところにある気がしたままであった。本研修への参加をしていく中で、自らアクションプランを企画し、管理職の先生、協力頂く同僚の方々とやり取りを進めたことによって、前述の「他人任せ」にしていた自分から、「自分ごと」として学校運営に関わっていこう、という意識の変化が感じられ、これまで以上に職務遂行のため、力を磨き、発揮していきたいと思うようになった。

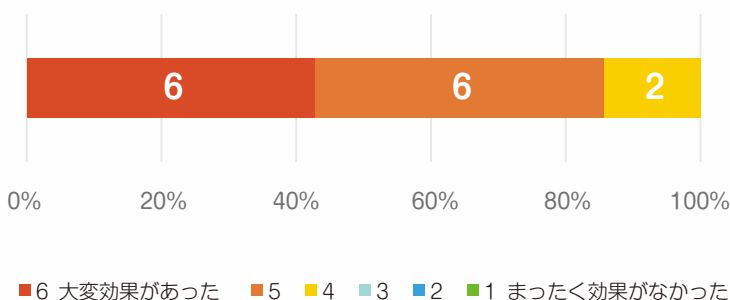
## 参加者の自己評価

充実期研修講座を通して向上した資質・能力（6段階・無記名）



## 所属校校長による評価

充実期の教員の資質向上への効果（6段階・無記名）



- 他校種の意欲のある先生方との研修が、本人への教職に対する考え方の広がりや深まりのみならず、人間的な成長に関する糧となった。
- 教諭自身がミドルリーダーとして学年や学校全体を俯瞰する視点を持ち、積極的に発信をしてくれた。また、学校外での学びの機会があるということが、次に続く教員にとってのモチベーションともなっている。
- 研修のために新たに何かに取り組むのではなく、自分の校務分掌を見直しながら取り組めるという仕組みは、充実期の教員に対するOJTとして、大変効果がある。
- 対象教諭の研修内容が児童生徒の指導等に直接かかわるものであったことで、研修成果を学校運営に反映させることができた。

## 日程及び内容

3月10日～4月12日 ※NITS中央研修と同時期		受講希望者の申込(申し込み方法は下記参照)
4月中旬		受講決定通知書とオンデマンドの案内を送付
4月中旬～5月上旬		オンデマンドによるガイダンスと講義 1時間30分 ●ガイダンス ●講義「令和の日本型学校教育とLearning Compass 2030」 研修動画視聴30分+ワーク 1時間30分程度 (いずれも勤務校で各自の都合に合わせて実施)
5月9日(木) 15:00～16:00		受講生・教職大学院教員顔合わせ(オンライン)
5月	後日提示する3つの日程から選択	協議(オンライン) ●勤務校の内外環境の分析ワークを踏まえた協議 ●アクション・プランのアイデアの共有
6月	後日提示する3つの日程から選択	協議(オンライン) ●人材が育つ学校づくりワークを踏まえた協議 ●アクション・プランのアイデアの共有
7月25日(木) 9:30～16:00 弘前大学		第1回集合研修(対面) ●講義「子どもや家庭の背景と外部連携のために」 ●アクション・プランの発表と協議 ●講義「組織とリーダーシップを考える」
7月末		オンデマンドによる講義 ●インクルーシブ教育システムにおけるマネジメント
自由参加 ※	8月 5回実施 各1時間30分	実践事例を踏まえたコンサルテーション(オンライン・4回) 事例提供: 昨年度受講生、教職大学院修了生等 ●「インクルーシブ教育システムにおけるマネジメント」 コンサルテーション(オンライン・1回)
8月下旬～11月中旬		各勤務校にてアクション・プランの実践(各自)
9月～10月 複数日程から1～2回選択		教職大学院教員によるコンサルテーション(訪問又はオンライン)
11月28日(木) 9:30～16:00 弘前大学		第2回集合研修(対面) ●アクション・プランの実施報告と協議 ●講義「学校組織の変容に向けて」 ●協議「ミドルリーダーとして組織を動かすときに重要なこと」 ●省察「研修をとおした自身の変化とこれからの5年」

※自由参加については、参加しないことも、複数選択することもできます。 ※参加無料です。集合研修の旅費は当方で負担いたしません。

## 申し込み方法

右記二次元バーコードから直接、又は教職大学院HPの充実期研修講座申込フォームにアクセスし、必要事項を入力して申し込んでください。

弘前大学教職大学院HP <https://www.edu.hirosaki-u.ac.jp/gs/pdotteachers.html>  
画面左の「研修講座申込」から「充実期研修講座申込フォーム」へ

令和6年度  
充実期研修講座  
申込フォーム



**申込期間：令和6年3月10日～4月12日**

主催／弘前大学教職大学院  
青森県教育委員会

支援(予定)／独立行政法人教職員支援機構  
後援(予定)／青森県小学校長会 青森県中学校長会  
青森県高等学校長協会 青森県特別支援学校校長会

お問い合わせ先

弘前大学教職大学院 教授 吉田 美穂  
Email: m-yoshida@hirosaki-u.ac.jp